

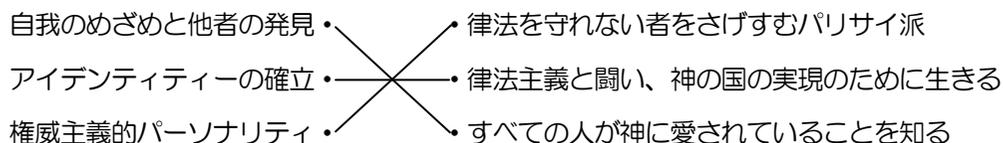
★イエスがいう「神の国」とは何だったのだろうか？

政治的な国家ではなく、すべての人が神への愛と隣人愛を实践できる理想状態。

★イエスが「復活し、昇天した」とは、どういう意味だろうか？

イエスに対する評価が180度変わった、ということ。つまりイエスは決して「極悪犯罪者」ではなく本当は逆に「救世主」だったということを弟子たちが納得し確信した、という比喻。疲れたときに「足が棒になった」とか「死んだ」と表現したり、あるいはリフレッシュしたときに「生き返った」と表現するのと類似。「ニュース」の言葉（情報言語）としてではなく、「文学的比喻」（象徴言語）として読む。

★左と右で関連のあるものを線で結んでみよう！



★キリスト教の「神を愛する態度」は、本来は「権威主義的服従」と異なる。どうして？

「神」とは、理性や愛を擬人化したものである。それゆえ「神を愛する態度」とは、一人ひとりが理性を発揮して隣人愛を实践する態度ということになる。つまり一人ひとりの人間を自立させ社会に水平的な人間関係を作りだそうとする態度が「神を愛する態度」である。

これに対して「権威主義的服従」は、自立できていない未熟な人間が垂直的な人間関係の中に安住し、理性を捨てて強者・上位者に依存し支配されることを求める態度であるから（≒「恋愛症候群」）、「神を愛する態度」とは本質的に異なっている。

※ただし、現実には両者の違いをわきまえず混同している人もいるので要注意。